

ハイウェイ・ハイドロプライマー
施工要領書

2025 年 11 月

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株式会社
株式会社 近代化成

1. 工法概要

1-1 製品の名称：ハイウェイ・ハイドロプライマー（以下、HY プライマー）

1-2 工法の分類：アスファルト混合物用接着剤

1-3 開発の経緯と目的

ポットホール（以下、PH）は降雨時に発生頻度が高く、しばしば短期間で再発する。降雨時の PH の発生と再発の要因として、補修用合材と基層との接着力不足による層間剥離がある。そこで雨天時でも補修用合材と基層との接着力を確保し、短期間での再発を抑制する水硬化型プライマーを開発した。



写真-1 荷姿



写真-2 仮埋め施工（はつり無し）



写真-3 平面的施工（はつり有り）

2. 工法の仕様

2-1 断面構造：本工法の構成断面を図-1 及び図-2 に示す。

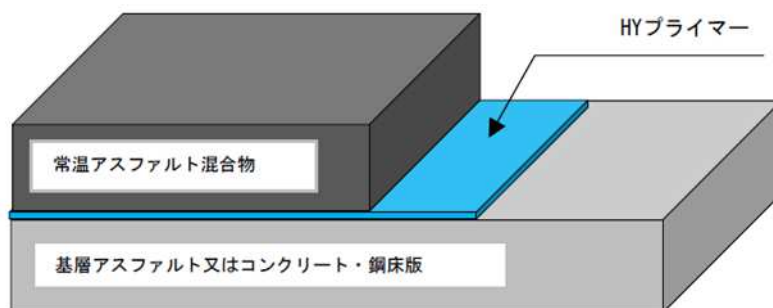


図-1 はつり無し施工時

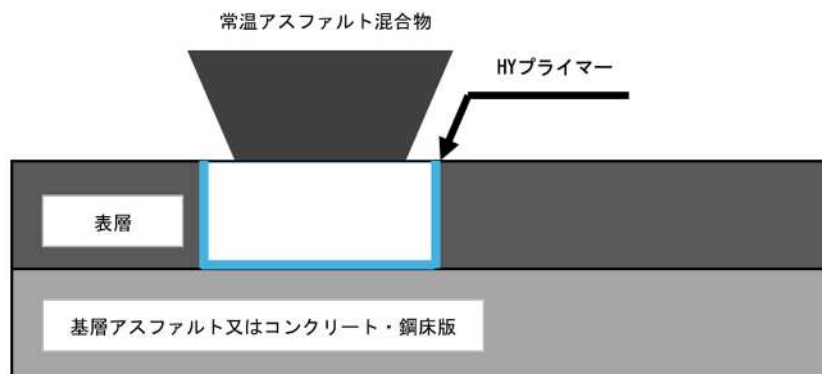


図-2 はつり有り施工時

2-2 使用材料：使用材料を表－ 1 に示す。

表－ 1 HY プライマーの主材料と性状

主材料	材料	外観・性状	備考
粉体	セメント他	灰色状粉末	
液体	ストレート アスファルト他	黒色状液体	
可使時間	水と混合時	20 分	23℃
混合比 セメント：アスファルト＝40：60（質量比） 使用量 1.0Kg／m2			

2-3 施工道具：刷毛（使い捨てとなるため、安価なものを推奨）



写真-4 施工に最適な刷毛

2-4 保管方法

- ・高温多湿を避け冷暗所に保管し、納入後 6 カ月以内に使用すること。
- ・本商品の梱包袋は強い衝撃により、分包箇所がはく離し材料が混合する可能性があるため、強い衝撃を避ける。

3. 施工条件

3-1 適用可能なアスファルト混合物

- ・常温アスファルト混合物：水硬化型、ポリマー型、カットバック型。
- ・加熱アスファルト混合物：密粒アスファルト混合物。

3-2 施工条件および施工禁止条件

- ・人力にて舗設する 2 m²以下の仮補修に適用する。
- ・施工は雨天、晴天を問わない。
- ・硬化に水を必要とするため、晴天時の施工の場合は 100mmL/m²の水を塗布時に混合する。

3-3 施工勾配

- ・合成勾配が 12%を超える場合は施工を行わない。

3-4 施工後から舗装までの存置期間と留意点

- ・施工後から舗装までの存置期間は 20 分以内とし、できる限り時間を空けずに施工する。
また風で飛散した落ち葉、ゴミなどがあれば舗設前に除去する。

4. 施工手順

4-1 材料の混合



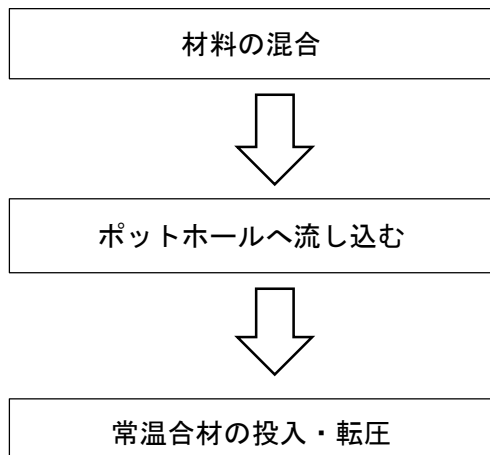
袋の真ん中を横に引き、セメントを液体内へ落とす



セメント粉体が残らないように 30 秒程度、混合しポットホールへ流し込む

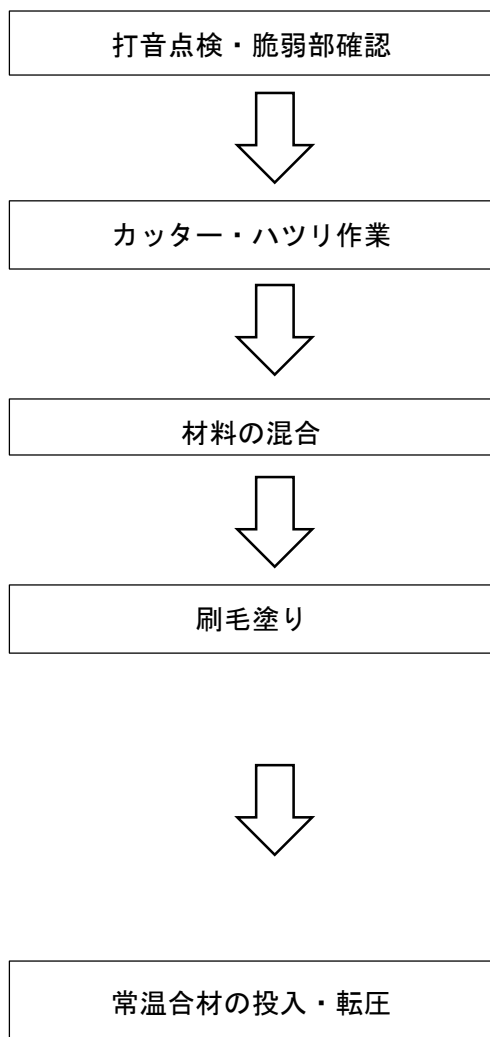
写真-5 材料の混合状況

4-2 仮埋め施工（はつり無し）



- ・材料混合後、20 分以内に合材を投入する。
- ・晴天時、補修箇所には水がない場合は 100mmL/m²の水を加える
- ・簡易規制内、交通量が少ないなど刷毛で塗布できる余裕がある場合は、PH 底部、側面へ塗布する。
- ・塗布する余裕がない場合は、流し込みだけで可。
- ・敷き均し・転圧は従来工法と同様。

4-3 平面的施工（はつり有り）



- ・点検ハンマー等で PH 周囲を叩き、脆弱部をマーク
- ・脆弱部は可能な限り除去する。
- ・ハツリ後の基層、床版からは可能な限り細粒分を除去する。
- ・材料混合後、早急に流し込み、20 分以内に合材を投入する。
- ・晴天時、補修箇所には水がない場合は 100mmL/m²の水を加える
- ・床版が平滑な場合は 1kg/m²を目安に塗布する。
- ・床版、基層に凹凸がある場合は多めに塗布する。
- ・塗布量は多くても合材と一体化するため、問題はない。
- ・泥、細粒分は可能な限り除去する。
- ・塗布後、20 分以内に合材を敷き均す。
- ・敷き均し・転圧は従来工法と同様。

4-4 水たまりでの施工

泥水があり、基層が目視できない場合はHYプライマーを投入し、刷毛で全体的に均す。均一に塗ることはできないが、基層と部分的に接着していれば延命化につながる。

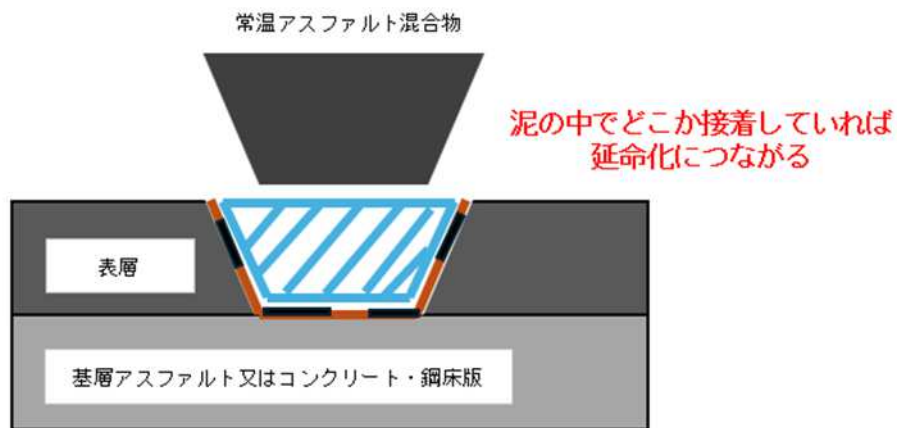
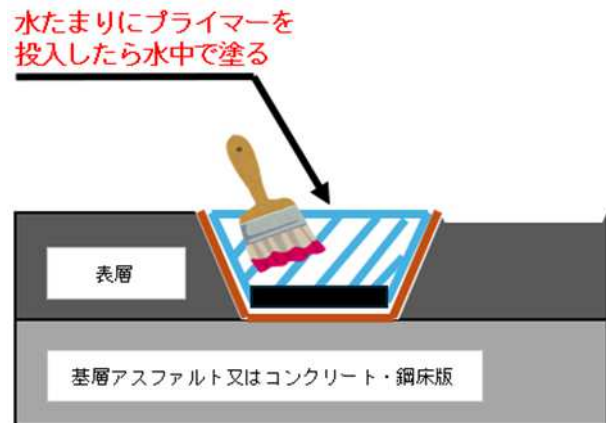


図-3 水たまりでの施工イメージ

4-5 施工後の留意事項

- ・塗布量が多く、転圧後にプライマーが表層に流出する際は、タイヤへの付着を防ぐためにウエス等でふき取る。
- ・火器類を近づけない

4-6 処分方法

- ・使用済み空袋の処分方法は内容物を完全に使い切った後、汚れを拭き取り、各自治体の廃棄区分（産業廃棄物または一般廃棄物）に従って処理する。
- ・余剰材料の処分方法は、水硬化反応を完了させたうえで固化させ、硬化物を産業廃棄物(アスガラ)として適正に処分する。液状のまま下水や土壤に流さない。

5. その他の事項

5-1 性能試験

HY プライマーの性能試験結果（参考値）

試験実施機関：一般財団法人 建材試験センター

試験項目	試験温度	試験結果	基板の種類
引張接着試験	23℃	0.6 N/mm ² 以上	コンクリート平板
		0.4 N/mm ² 以上	鋼板

5-2 記載内容を担保する社名および氏名

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株式会社 事業開発部

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 1-18-22 名古屋 AT ビル 9F 052-218-6730

株式会社近代化成 代表取締役社長 林 昭一

〒470-0162 愛知県愛知郡東郷町大字春木字小坂 141-2 0561-38-5100